

第33回森と花の祭典―「みどりの感謝祭」 感じようみどりの恵みと木のぬくもり

みどりの感謝祭式典

毎年、木々や草花の新緑が鮮やかな4月15日から5月14日まで、みどりについての関心と理解を深める「みどりの月間」です。森と花の祭典―「みどりの感謝祭」は、同月間に開催される全国各地の緑化行事の締めくくりとして開催されています。

今年は5月11日(土)に、感謝祭の名誉総裁に御就任された佳子内親王殿下の御臨席のもと、衆参両院議長、坂本農林水産大臣、そのほか関係者の約300名の方々に御出席いただき、東京都千代田区のイイノホールにて式典を開催しました。

主催者を代表して、坂本農林水産大臣から、みどりの感謝祭の意義や森林の大切さなどについて挨拶があり、引き続き、佳子内親王殿下からおことばを賜りました。その中で、「これまで人々が植え守り育ててきた人工林」に触れられ、「各地の木々が、使われ、新たな苗木が植えられ、育てられて、「みどり」が循環していく様子を想像しております」と述べられました。続いて、みどりや森林に関して顕著な功績のあった方に贈られる「みどりの文化賞」の顕彰、地域の環境美化や緑化活動に取り組む緑の少年団等への苗木と花の特別贈呈、山火事予防ポスター用原画受賞者の表彰を行いました。

式典の最後には、令和7年春に全国植樹祭が開催される埼玉県を代表し、同県秩父市で活動している南小みどりの少年団から、誓いの言葉が述べられました。



坂本農林水産大臣による主催者代表挨拶



佳子内親王殿下からのおことば



苗木と花の特別贈呈



誓いの言葉

また、式典に先立って、佳子内親王殿下から各受賞者等へのお声がけが行われました。内親王殿下から緑の少年団の小学生に、「これからもみどりの活動を頑張ってください。」とお言葉をかけられるなど、受賞者と和やかな雰囲気での交流が行われました。



みどりとふれあうフェスティバル

みどりの感謝祭の併催行事として、5月11日(土)と12日(日)の2日間、東京都八王子市内の高尾599ミュージアムの敷地内で、「みどりとふれあうフェスティバル」を開催しました。昨年は、新型コロナウイルス感染症への対応によりオンラインでの開催でしたが、今年は初めて、高尾山の麓で開催しました。21の団体がみどりに関する普及や体験のブースを出展し、林野庁からも森林環境税やレクリエーションの森、サザエさん一家の「森林の環応援団」に関する展示を行ったほか、展示内容に関わるイラストの缶バッジ作りも出展しました。当日は天候にも恵まれ、高尾山の登山客や親子連れなど、約3千人の方がフェスティバルに会場され、体験活動で楽しい時間を過ごされていました。

